

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00585

研究課題名(和文) 地理的変異に基づく現代スペイン語文法の構築

研究課題名(英文) Grammar of present-day Spanish based on geographical variation

研究代表者

高垣 敏博 (Takagaki, Toshihiro)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：00140070

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：スペイン語は、スペインのみならずラテンアメリカでも用いられる広域言語である。それゆえ、少なからぬ地理的変異が存在する。とくに「文法的変異」についてはスペイン語圏を包括する基本的データが欠如している。本研究では、スペイン語文法で問題になりやすい20程のテーマに関して、現地アンケート調査を実施してきた。今回予定した中米2か国における調査は感染症や治安の観点から延期せざるをえなくなった。一方で、アンデス地域における間接目的語代名詞使用の特殊な変異を探るべく、ボリビアにおいてアンケートを実施し、特殊性が現地ケチュア語による干渉現象による影響であることを一定程度確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スペイン語はスペインおよびラテンアメリカで使用される広域言語である。しかしその広域性のために地理的なバリエーションが存在し、十分な記述がなされてこなかった。国・地域ごとに研究や報告はあるが、統一基準で全体を把握した研究は限られている状態である。本研究はスペイン語文法で問題になることの多いテーマを20程度を選出し、それをもとに100ほどのアンケート文を作成し、スペイン語圏の29都市において大学を中心に実施し、結果を蓄積してきた。

このような成果は研究代表者、分担者の出版物(論文、辞書、専門書、一般書など)や研究発表、講演などで公表されている。

研究成果の概要(英文)：Since Spanish is a world-wide language, spoken in Spain and Latin America, it shows a considerable geographic variation. Especially in grammatical field, we are lacking in fundamental data. Our aim in this project is to make up for this lack by carrying out an on-the-spot questionnaire with about 100 questions related to 20 important grammatical topics. The questionnaire planned to be carried out this time in Honduras and Nicaragua had to be postponed due to the unexpected social circumstances. On the other hand, a field work in the Andean region was added to our agenda in order to account for a peculiar behavior in indirect object pronouns detected there. The results show that Spanish in this bilingual region seems to be influenced by its contact with the local language (Quechua) as far as the high frequency of the pronoun *le(s)* is concerned.

研究分野：言語学

キーワード：言語学 スペイン語学 言語バリエーション 地理的変異 方言学 言語接触 ケチュア語 統語論

1. 研究開始当初の背景

スペイン語はイベリア半島から南北アメリカ大陸にまたがる20を超える国と地域で用いられる広域使用言語である。そこには多様なスペイン語の変異形が観察される。伝統的な「方言学」ではスペイン語圏全域を射程に入れるバリエーション研究は多くない。また研究対象も音声や語形、語法などに限られていた。個別の国や地域のスペイン語に関するモノグラフ的研究は存在しても一貫したシステムの中で得られた比較可能なデータが利用できないために統一的分析ができない状況が続いてきた。

本研究に先行する科研費プロジェクトVARILEX: Variación léxica del español en el mundo 『世界のスペイン語の語彙的バリエーション』 (h-ueda.sakura.ne.jp) はアンケート調査(現在はウェブ上)に基づきスペイン語圏で用いられる「語彙」の変異形をデータベース化するもので、本研究はその延長線上にあり自然に着想されるものであった。

2. 研究の目的

そのためスペイン語の重要文法項目の基本的使用に関して同一基準により、広域スペイン語圏の各地点で一次的データを収集する必要があった。直接的なデータ収集のために、現地アンケート調査を実行する。得られた結果は次々蓄積し、随時検索できるようにする。プロジェクトのサイトを設け、継続的調査で蓄積していく。本研究はこうして進められてきたプロジェクトの終盤にあたり、中米二か国での同アンケートを残すのみであった。成果をもとに期待される文法変異に基づく文法構築に向けて個別事象分析を重ねるのが目的であった。

3. 研究の方法

本研究では、スペイン語の文法レベル(統語・形態論)で、イベリア半島(スペイン)およびラテンアメリカ(北米メキシコから、中米、カリブ海域、アンデス地域、ラプラタ川流域)に広く分布する多様なスペイン語を対象にし、各地点を等距離の視点で観察する。具体的には、スペインの10都市とラテンアメリカ(以下、ラ米と略)の20都市、合わせて30地点を選び、現地でスペイン語の使用実態をアンケートを実施、その成果をウェブで公開する。2001年度開始以来約20年を経た現在、成果はプロジェクトのサイトVARIGRAMA (Variación grammatical del español en el mundo 「世界のスペイン語の文法変異」 h-ueda.sakura.ne.jp) で閲覧できる。本研究では残る中米のホンジュラスとニカラグア2地点における現地調査で予定を完了する予定であった。

[Ejemplo 1] Yo la dije la verdad. (la = María)

✓(A) Yo lo diría así.

(B) Yo no lo diría, pero lo he oído decir.

(C) Yo no lo diría ni lo he oído decir.

(D) Comentarios: _____

アンケート例

4. 研究成果

(1) 当初予定していた未調査地点ホンジュラス、ニカラグアにおける現地アンケート調査は折からの感染症禍に加えてこれら中米特有の社会・政情不安による治安状況に鑑み、残念ながら

実施を控えざるを得ないことになった。今後、機会を得て実現し、所期の目標を成就させたい。

(2) 一方、かねてより、アンデス地域で実施したアンケート調査の結果からキト(エクアドル)、ラパスおよびエルアルト(ボリビア)、アスンシオン(パラグアイ)における「間接目的語代名詞le/les」の異常な高率使用をプロジェクトとして問題視していた。この機会に、アンデス地域でも治安の問題が少なく感染症対策が行き届いているボリビアの都市コチャバンバにおけるアンケート査候補となった。先行文献から先住民語(ケチュア語、アイマラ語など)との言語接触によるスペイン語への影響が予想された。

スペインのスペイン語特有だと思われる“leísmo”(「人間・男性」を対象とする人称代名詞対格形として本来のloを使う代わりに与格形のleを代用するスペイン特有だとされる用法)が本研究の調査結果からラテンアメリカのキトQuito(エクアドル)30%、ラパスLa Paz(ボリビア)26%やアスンシオン Asunción(パラグアイ)63%などで高率を示していることがわかってきた(下表: インフォーマントの判断 1:Digo「自分は言う」、2:Oigo「聞いたことがある」、3:No「自分は言わない」の回答を集計。左端の Mex=メキシコシティから右端のBUE=ブエノスアイレスまでラ米15都市における容認率を示す)。

%	MEX	SJO	PAN	HAB	SDO	SJU	CAR	BOG	QUI	LIM	LPA	STG	ASU	MTV	BUE
1:Digo	5		12	5	20		4		30	5	26	8	63	5	
2:Oigo	79	9	38	21	37	23	32	24	52	68	62	12	37	5	65
3:No.	16	91	50	74	43	77	64	76	17	27	13	80		90	35

ラ米におけるleísmoの容認度

マドリード自治大学のAzucena Palacios教授(言語接触、先住民言語)の指摘や先行研究から、現地先住民語(ケチュア語、アイマラ語)の影響による可能性が予測された。こうして2022年9月、ボリビア・コチャバンバにて現地アンケート調査を実施、その結果から「有生」の対象には男性・女性を問わず(スペイン語のみ使用話者では8%に対し)ケチュア語とスペイン語の併用話者の方が高率(30%)になることが確かめられた[高垣・梅崎・西村(2023:48)]。

調査データをもとにこの他さまざまな個別文法項目についての分析を進めている(以下、文献参照)。

(3) 2020年にスペイン、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学より *Dialectología digital del español* (『スペイン語デジタル方言学』)が刊行され新しいスペイン語方言研究の諸手法が集められたが、その1章として本プロジェクトVARIGRAMAを紹介する機会が与えられた。方法論として一定の認知度を得たことを示す証左ではないかと考える。

スペイン語研究ではスペインのいわば「標準」スペイン語を対象にしがちである。現実に世界で5億を超す話者のうちわずか10%程度を占めるに過ぎない。特定の文法現象を論じる際に広域スペイン語圏の地理的バリエーションを積極的に考慮した研究方法は前例が限られていた。近年本研究と協力関係にあるバルセロナ自治大学言語学科 Ángel Gallego氏が主導する方言地図プロジェクトASINES (Atlas Sintáctico del Español「スペイン語の統語地図」)などが見られるようになり、本研究プロジェクトもこれと連携することになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高垣敏博	4. 巻 37
2. 論文標題 se受身文からse不定人称文へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 スペイン語学研究	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島教隆	4. 巻 66
2. 論文標題 書評：RAE. Cronica de la lengua espanola 2020. Planeta, RAE-ASALE. Cronica de la lengua espanola 2021. Planeta	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Hispanica（日本イスパニヤ学会）	6. 最初と最後の頁 157-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kahori, Umezaki	4. 巻 9, 1(18)
2. 論文標題 "La saya es nuestra": los pasos sonoros hacia la reivindicacion de los afrobolivianos	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Entre Diversidades. Revista de Ciencias Sociales y Humanidades	6. 最初と最後の頁 382-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31644/ED.V9.N1.2022.A16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高垣敏博	4. 巻 36
2. 論文標題 Levanto la manoと(Le/Me)lavo las manos. 身体部位をめぐる表現	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スペイン語学研究	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福嶋教隆	4. 巻 65
2. 論文標題 書評：RAE-ASALE. Glosario de terminos gramaticales.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hispanica (日本イスペインヤ学会)	6. 最初と最後の頁 103-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 高垣敏博
2. 発表標題 ラテンアメリカのleísmo - 言語接触の影響
3. 学会等名 東京スペイン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高垣敏博・梅崎かほり
2. 発表標題 コチャバンバ (ボリビア) におけるleísmoおよびleísmoについて 現地調査の結果から
3. 学会等名 東京スペイン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福嶋教隆
2. 発表標題 スペイン語のメンタル・スペース理論について
3. 学会等名 日本スペイン語学セミナー 第42回大会 (SELE 2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fukushima, Noritaka
2. 発表標題 Análisis contrastivo de la modalidad en español y japonés
3. 学会等名 日本語とスペイン語の対照文法公開シンポジウム(立命館大学主催)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kahori Umezaki
2. 発表標題 Trazando el contorno de la “nación” en el Estado Plurinacional: sobre la oficialización de la lengua afroboliviana
3. 学会等名 VII Congreso Nacional de Sociología (Universidad Mayor de San Simón, Cochabamba (国際学会))
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kimiyo Nishimura, Yoshimi Hiroyasu
2. 発表標題 El uso de los artículos en sintagmas preposicionales de ELE: análisis comparativo de corpus de español general y de aprendientes con el japonés como L1
3. 学会等名 Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村君代
2. 発表標題 不定詞間接疑問文の意味解釈について
3. 学会等名 関西スペイン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高垣敏博
2. 発表標題 se受身文とse不定人称文
3. 学会等名 東京スペイン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高垣敏博
2. 発表標題 Levante la mano.と(Le/Me) lavo las manos. 身体部位をめぐる表現
3. 学会等名 SELE2021(東京・関西合同スペイン語学夏季研究会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福嶋教隆
2. 発表標題 書評: Takagaki, T. (ed.). Exploraciones de la linguística contrastiva español-japones,
3. 学会等名 SELE2021(東京・関西合同スペイン語学夏季研究会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村君代
2. 発表標題 間接疑問文における不定詞と定形動詞について
3. 学会等名 東京スペイン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福島教隆
2. 発表標題 書評：RAE-ASALE (2019) Glosario de terminos gramaticales
3. 学会等名 関西スペイン語学研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 坂本恵、高垣敏博他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 381
3. 書名 国際日本研究への誘い	

1. 著者名 Noritaka Fukushima, A. Lopez Pelaez, M. Sanz, Mika Akihara (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Madrid: Edinumen	5. 総ページ数 204
3. 書名 Espana en el siglo XXI: bienestar y cambio social. Sociedad espanola para estudiantes de espanol como LE.	

1. 著者名 Fukushima, Noritaka	4. 発行年 2023年
2. 出版社 令和2～4年度科学研究費助成事業（基盤研究（C））研究成果報告書	5. 総ページ数 288
3. 書名 . Estudios sobre el subjuntivo del espanol.	

1. 著者名 坂本恵、友常勉、高垣敏博他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 国際日本研究への誘い 日本をたどりなおす29の方法	

1. 著者名 福嶋教隆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神戸市外国語大学	5. 総ページ数 250
3. 書名 スペイン語と日本語の対照研究(科研費研究報告書)	

1. 著者名 福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 342
3. 書名 詳説スペイン語文法	

1. 著者名 Gallego, A., Takagaki, T.他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Universidad de Santiago de Compostela (大学出版会)、スペイン	5. 総ページ数 224
3. 書名 Dialectología digital del español	

1. 著者名 福島教隆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 科研成果物として自費出版	5. 総ページ数 140
3. 書名 スペイン語学の潮流 諸研究の紹介と書評	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>VARIGRAMA https://h-ueda.sakura.ne.jp/varigrama/index.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 君代 (NISHIMURA Kimiyo) (10365679)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	宮本 正美 (MIYAMOTO Masami) (20131477)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	
研究分担者	福島 教隆 (FUKUSHIMA Noritaka) (50102794)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	梅崎 かほり (UMEZAKI Kahori) (30747788)	神奈川大学・外国語学部・准教授 (32702)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関